



中国の先行き不透明

2016年の経済は世界的な株安で始まった。その原因は中国経済の先行きへの懸念が主たるものであり、国際的な石油価格の低迷も影響を及ぼしている。海外経済の問題が日本の景気に影響を及ぼすというのは、これまで何度も日本が経験したことであるが、今年も海外の経済動向から目を離すことができない。

そもそも、中国経済はどれほど厳しい状況にあるのだろうか。サンフランシスコで行われていた会議でも、中国経済が大きな話題になっていた。残念ながら中国経済に対する見方については、専門家

東大教授(国際経済学) 伊藤 元重

世界経済と中東情勢

の間でも大きな意見の違いが見られる。非常に深刻にとらえている人もいれば、中国経済の先行きに楽観的な人もいる。どこまで深刻なのか分からないということが、中国経済の問題なのかもしれない。中国政府が発表する統計にもにわかには信じられないようなもの

もある。中国経済の動きに反応する日本や米国の株価が不安定であるのも、中国経済の美態がつかみきれないからだろう。中国経済について過度な悲観論を持つ必要はないだろうが、当面は中国経済の動きを注意深く見ておく必要がある。

問われるデフレ脱却策

2016年は、日本経済にとってデフレから本格的に脱出する重要な年となる。来年の4月には消費税の10%までの引き上げが予定されており、それまでに日本経済を安定的な成長軌道に乗せておかななくてはならない。そうした大切な年の初めから世界経済が不安な状況でスタートしたことは気にならない。残念ながら、世界経済の変動に

対して日本ができていないのはあまりない。中国経済の減速に対して日本が対応できるとすれば、日本の国内経済を刺激することくらいだろう。石油価格の乱高下についても、日本としてはそれを受け入れるしかない。結局のところ、世界経済の不安定化に対して日本ができる対応策は、日本経済自体が元気になるような対応を進めていくことしかないのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。